

B-34 布の水分移動について

長崎大教育

井上

栄

1. 直接肌に接して着用する肌着類の場合の、布の水分移動において、繊維組成および、織物の間隙が影響をおよぼすが、間隙を表わす方法として、通気度や、cover factor が考えられる。しかし、通気度は、測定機に測定不能の範囲がある。また、c・f も、特殊な織物の場合は、表わし難い。そこで、次の測定方法を試みた。

2. 循環式恒温水槽から、考案した銅製保温箱に温水を循環させて、表面温度を一定に保つ。その上に、一定水分を含ませた濾紙 (No. 50) をおき、その上に試料、さらに濾紙 (No. 63-3p) と重ねる。周囲は、アクリル板の直角定規 2 コで蔽い、上部は、ガラス製の蓋をする。40分後、上の濾紙、試料、および下の濾紙の重量を測定した。表面温度は、平均皮膚温を参考に、気温に応じて変えた。今回は疎水性繊維 8 種について行なった。

3. 上部濾紙の吸水度は、試料の(1)通気度と対応するとはいえない。(2)c・f に対応する傾向にあるが、組織や糸組成により異なる。(3)重量に対応する傾向にあるが、特に糸組成により異なる。